

### 【研究主題】

「遊び」を生かして主権者を育てる社会科・公民科を中心とした小中高連携カリキュラムの開発

### 【開発するプログラムの概要】

「意思決定」に関わる資質や能力を軸として、社会科・公民科を中心に、算数科・数学科、体育科・保健体育科の3教科で「知・情・意」を意識した連携を図り、「遊び」を活用しながら「合意形成」をテーマにカリキュラム・マネジメントを通じた小中高を一貫する主権者教育の一つの学習プログラムを開発する。

### 実践内容 ※開発するプログラムから一部抜粋

<中学校・3年生> 社会科（公民的分野）

【単元名】 私たちの暮らしと政治（C(1)ア(ア)(イ)C(2)ア(ア)(イ)(ウ)イ(ア)）

#### 【主な単元の目標】

- ・我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割、議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方、国民の権利を守り、社会の秩序を維持するための法に基づく公正な裁判の保障について理解する。
- ・障害者の方の話を踏まえ、現在の選挙について公正の視点から考察し、現状と課題について理解する。
- ・課題を解決し、国民が等しく政治に参加できるようにするためには、どのようなことが必要か、考え、表現する。

#### 【学習課題】

主権をもつ国民の意思を政治に反映させ、皆がくらしやすい社会を実現していくために必要なことはなんだろうか。

【実践例】 ※社会科（公民的分野） 「障害のある人からみた選挙の壁」 第5・6/6時

#### 授業の概要

#### <概要>

- ① ゲストティーチャーより、障害の特性についてお話いただく。
- ② 選挙に行く際に必要な支援について説明いただくとともに、郵便投票の仕組みを勝ち取った経緯や投票に当たった様々なサポート情報を紹介するNHK「みんなの選挙」ページの作成に関わった経験についてお話いただく。
- ③ 選挙の「壁」をつくっているのはだれか。なぜ壁があるのか。車椅子を例に、「個人モデル（障害は車椅子の人にある）」から「社会モデル（障害は車椅子を利用できない環境にある）」へと思考を転換していくことの重要性を理解させる。
- ④ グループ討論
  - 1) あなたが障害者だとしたら、投票に行くかどうか？ その理由も。
  - 2) 障害のある、ないに関わらず、多様な人々の立場から考えるには、何が必要だろうか？
- ⑤ グループ発表と本時の振り返り



#### <指導上の工夫>

○地域や社会生活における具体的な課題等を自分との関わりの中で捉えられるようにするための指導上の工夫

当事者からお話いただくことで、意思決定場面において、当事者の立場を考えてより具体的なイメージを持って改善策を考えることができるようにした。

○小中高を一貫する学習プログラムに資する工夫

題材選択に選挙の「壁」と、外部人材に「障害者」との直接対話を小中高で共通項にすることで、一貫した学習プログラムとした。

○社会科と他教科等との連携

特別活動（生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営）

#### 専門家や関係諸機関等との連携・協働

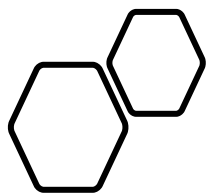
- ・ALS（筋委縮性側索硬化症）患者
- ・文京区選挙管理委員会

#### 効果等

◆主権者として平等に行使しうる権利が妨げられていないか、社会を構成する様々な人の視点から考えることの大切さに気が付くことができた。また、そのような意識をもつことが、多様性を認め合う社会の基礎となっていく、という気付きにもつながった。

時間	主な学習内容	
	社会科（公民的分野）	関連付けた他教科等
1	民主主義と政治	
2	政治参加と選挙	・特別活動（生徒会活動）「生徒会役員選挙」
3	政党と政治	
4	マスメディアと世論	
5/6	民主政治の推進 「障害のある人からみた選挙の壁」（本時）	

※ 単元名の（ ）内は学習指導要領の内容の該当番号



# 実践の様子

附属竹早中学校

